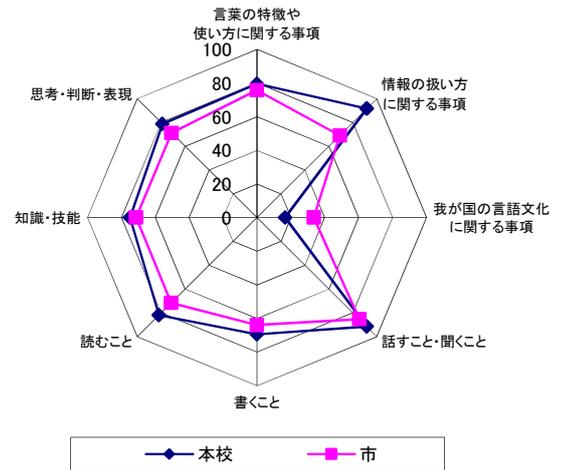


宇都宮市立城山西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.6	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	91.7	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	16.7	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	91.7	85.5	86.5
	書くこと	69.4	63.9	65.8
	読むこと	81.9	71.6	69.5
観点別	知識・技能	75.0	71.3	72.9
	思考・判断・表現	78.9	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

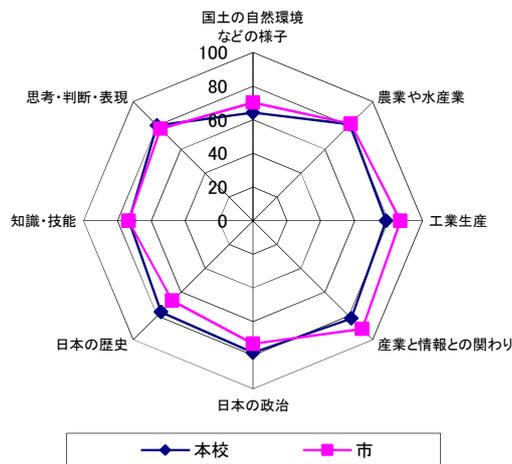
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本領域の正答率は79.6%で、市平均をやや上回った。 ○第6学年に担当されている漢字を読む設問において全問正解だった。 ●第5学年に担当されている漢字を正しく書く設問において、送り仮名を正しく書けなかったものがあった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、送り仮名を正しく表記できるよう、宿題等で繰り返し復習したり、朝の学習等を活用したりして、定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	本領域の正答率は91.7%で、市平均を非常に大きく上回った。 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかを問う唯一の設問であった。	・情報と情報の関係について考える力を養うために、今後も国語科や他教科の中で、新聞をはじめとするいろいろな情報に触れたり、その情報を相手に発信したりする機会を積極的に設けていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	本領域の正答率は16.7%で、市平均を大きく下回った。 ●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかを問う唯一の設問であった。	・朝の読書指導や読書週間などを通して、幅広い内容の本に触れる機会を多く作り、日本文化の関心を深めさせていきたい。 ・和語・漢語・外来語の由来やわが国の言語文化に関する事項について、補充プリント等を活用して習熟していく。
話すこと・聞くこと	本領域の正答率は91.7%で、市平均を上回った。 ○インタビュー内容を聞き取るすべての設問において、正答率が市平均を上回った。 ●意図に応じて、質問を工夫しているかを選択する設問において、正答率が市平均をやや上回った。	・インタビューの聞き取りに関する肯定割合は上回っているものの、日常的な会話において、意図に応じて工夫して話すことにやや課題が見られる。今後も国語の授業のみならず、他教科や学級活動の話し合いの中で、話の内容を的確に捉え、自分の意見を発言できるように、話し合いの方法を身に付けさせていく。
書くこと	本領域の正答率は69.4%で、市平均を上回った。 ○目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを選択する設問における正答率が、市平均を非常に大きく上回った。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く設問における正答率が市平均を下回った。	・国語科や他教科、特に総合的な学習の時間等で様々な情報に触れ、読み取った情報を、相手に分かるように目的に応じて文章にまとめる活動を今後も取り入れていきたい。 ・決められた条件の中で自分の考えと理由を明確にして文章化する活動に取り組ませたり、賛成しない意見に反論する文章を書いたりする機会を、意図的に作っていく。
読むこと	本領域の正答率は81.9%で、市平均を大きく上回った。 ○説明文で目的に応じて、文章の情報を整理する設問の正答率が、市平均を非常に大きく上回った。 ●説明文の文章全体の構成を捉える設問における正答率は、市平均と同程度であった。	・説明文の読み取りにあたっては、日常の学習の中で、序論・本論・結論の三つのまとまりに気付かせ、事実と感想、意見などの関係を押さえて、要旨を把握させ筋道立てて考える力を育てていきたい。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.3	70.3	66.4
	農業や水産業	81.0	81.6	75.3
	工業生産	78.6	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	82.1	91.0	81.3
	日本の政治	78.6	73.2	75.3
	日本の歴史	76.8	67.4	68.5
観点別	知識・技能	73.2	73.5	72.5
	思考・判断・表現	80.2	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

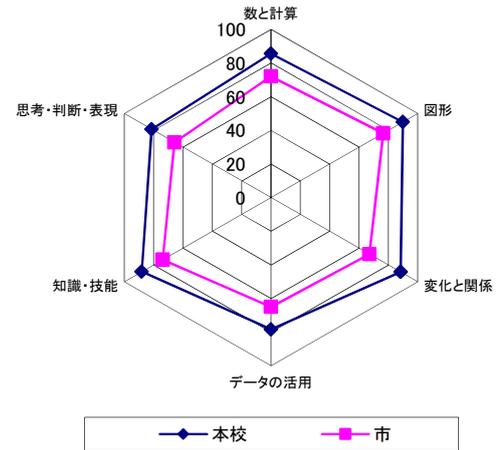
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本領域の正答率は64.3%で、市平均を下回った。 ○人工林の役割についての設問において、市平均を大きく上回った。 ●日本の周辺の海洋名、赤道についての設問において、市平均を大きく下回った。	・「世界の中の日本」を実感させ、位置関係の理解を深めるために、世界地図や地球儀を使いながら、白地図への書き込み、日本の周りの国を探す等の活動を取り入れる。また、クイズや発表など児童が興味関心を高めるような活動の工夫により、基礎的な知識の定着を図る。
農業や水産業	本領域の正答率は81%で、市平均と同程度だった。 ○米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り表現する設問において、市の平均を上回った。 ●水揚げされた魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断する設問において、市の平均を下回った。	・我が国の農業や水産業における食糧生産について、身近な出来事や事柄から学習設問を見出し、追究・解決する学習を通して、我が国の課題を知り、課題解決に向けて主体的に考えをまとめられるようにする。 ・資料を活用する際は、関連する要素やその分布などに着目できるように、視点を与えて資料提示し、それらを関連付けて考えたり表現したりする活動を行う。
工業生産	本領域の正答率は78.6%で、市平均を下回った。 ○安全性の高い自動車づくりについて、資料をもとに考える設問において、正答率が92.9%と高かった。 ●自動車の製造工程についての設問において、市の平均を下回った。	・日本の工業生産について、動画視聴やオンライン見学などを通して視覚的に捉え、自分で情報を整理・まとめる活動を丁寧に扱い、概念的知識の定着を図る。
産業と情報との関わり	本領域の正答率は82.1%で、市平均を下回った。 ●情報を生かした産業について考える設問において、市の平均を大きく下回った。	・自分たちの生活と情報とのかわりについて、関心を高め、自分事として探究できるような課題設定や単元計画を工夫する。 ・授業において、情報に関するニュースを取り上げ、その特色や意味を多角的に考え、議論する機会を設ける。
日本の政治	本領域の正答率は78.6%で、市平均を上回った。 ○日本国憲法の原則である基本的人権の尊重についての設問において、市の平均を大きく上回った。 ●法律ができるまでの流れについて、資料を読み取る設問において、市の平均をやや下回った。	・我が国の政治の考え方と仕組みや働きについて基礎的事項の十分な理解を図るとともに、社会的事象について、児童会や学校などの身近な組織の仕組みや働きに置き換えて考えられるよう働きかけていく。 ・複数の資料を読み取り、適切に判断し、自分の言葉で表現する活動を積み重ねていく。
日本の歴史	本領域の正答率は76.8%で、市平均を上回った。 ○弥生時代についての理解をもとに判断する設問において、市の平均を非常に大きく上回った。 ○江戸時代の禁教と鎖国について、適切な資料を判断する設問において、市の平均を非常に大きく上回った。 ●織田信長や豊臣秀吉の業績についての設問において、市の平均を大きく下回った。	・社会的事象を時期や推移などに着目して捉えさせたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすることで、歴史的な見方や考え方を働かせられるようにする。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	85.6	72.1	74.6
	図形	89.8	76.5	76.1
	変化と関係	88.3	67.1	59.7
	データの活用	78.3	65.0	64.5
観点別	知識・技能	88.1	73.8	74.7
	思考・判断・表現	81.5	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

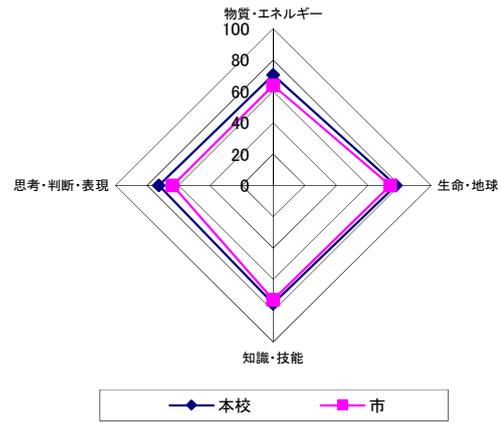
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本領域の正答率は85.6%で、市平均を大きく上回った。</p> <p>○基礎的な計算力を問う全ての設問において、正答率は市平均を非常に大きく、もしくは大きく上回っていた。正答率100%の設問も複数あった。</p> <p>●比較量、基準量が分数の場合に何倍になるかを考えて式を選ぶ設問において、正答率50.0%と市平均をやや下回った。</p>	<p>・児童の実態に応じて、習熟度別学習や少人数学習での個別指導を、今後も効果的に取り入れて、個に応じた指導の充実を図っていく。</p> <p>・通分、約分などの分数計算において、宿題や朝の学習等を活用して、基礎的な計算の補充プリント等に取り組み、更に力を伸ばしていく。</p>
図形	<p>本領域の正答率は89.8%で、市平均を大きく上回った。</p> <p>○平行四辺形の面積を求める式を理解したり、線対称の図形の対応する点を理解したりする設問において、正答率は市平均を非常に大きく上回っていた。正答率100%の設問も複数あった。</p> <p>●三角形の三つの角の和を理解し、1つの外角を求める設問において、正答率58.3%と市平均を下回った。</p>	<p>・図形の面積や体積を求めたり、線対称・点対称の理解について答えたりする設問においては正答率が高いことから、今後も補充プリント等を活用して、更なる習熟を図っていく。</p> <p>・図形の角度の理解に関する問題については、様々な問題を解いたりすることで、図形についての理解を更に深め、学習の定着を図っていく。</p>
変化と関係	<p>本領域の正答率は88.3%で、市平均を非常に大きく上回った。</p> <p>○単位あたりの量から混み具合を考察したり、基準量と割合から比較量を求めたり等の設問において、正答率は市平均を大きく上回った。</p> <p>○全ての設問において、正答率は市平均を非常に大きく、もしくは大きく上回っており、正答率100%の設問もあった。</p>	<p>・習熟度別学習を積極的に活用し、個に応じた指導を取り入れながら習熟を図るとともに、発展的な問題にも取り組み、学習内容の理解を深めていく。</p> <p>・単位あたりの量の理解については、混み具合・速さ・割合まで一貫して理解させ、数直線などを効果的に活用できるように宿題等で繰り返し復習したり、朝の学習等を活用して定着を図ったりする。</p>
データの活用	<p>本領域の正答率は78.3%で、市平均を大きく上回った。</p> <p>○ドットプロットから最頻値を読み取ったり、度数分布表を完成させる設問において、正答率は市平均を非常に大きく上回った。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとに平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する設問について、正答率は市平均を上回ったが、41.7%と高くなかった。</p>	<p>・問題練習を通して基礎的事項の定着を日常的に図るとともに、発展的・応用的な問題にも取り組ませる機会を設け、単元学習全体の習熟が高められるようにしていく。</p> <p>・記述式の設問の正答率が低いことから、様々な出題形式の問題に取り組む機会を設け、出題の条件に合った形で文章で答える経験を多く積ませていく。</p>

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.5	63.8	61.6
	生命・地球	77.7	74.1	73.3
観点別	知識・技能	75.4	73.0	71.3
	思考・判断・表現	72.5	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>本領域の正答率は70.5%で、市平均を大きく上回った。</p> <p>○物の溶け方に関する全ての設問において、市平均を大きく上回った。特に、ろ過のしかたで、正しくないところを指摘できるかについての設問において、正答率が85.7%で、市平均を非常に大きく上回った。</p> <p>●石灰水を白くにごらせる気体が二酸化炭素であることを理解しているかについての設問において、正答率が78.6%で、市の平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題作りから計画、実験、まとめといった授業の流れを基本とし、実験の目的やその方法といった課題解決に向け、話し合い活動の充実を目指す。 今まで学習してきたことや経験を生かして、どうすればいいのか、どんな結果になりそうかと問いかけを繰り返すことで見通しをもたせる。 逆説な問いかけを増やすことによって興味をひきつけつつ定着を促す。 目に見えないものを扱う際は、図やモデルを使ってイメージを共有していく。
生命・地球	<p>本領域の正答率は77.7%で、市平均をやや上回った。</p> <p>○流れる水のはたらきに関する全ての設問において、市平均を大きく上回った。特に、目的の結果を得るための実験の方法を構想し、説明できるについての設問において、正答率が78.6%で、市平均を非常に大きく上回った。</p> <p>●植物のつくりとはたらきに関する設問において、植物が養分をつくるために必要なことを理解している設問では正答率100%だったが、葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考えることができる設問において、正答率が57.1%で、市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験の予想の質を向上させる。 観察や実験を通し、原理現象を理解させるため、図や絵、言葉を用いて記録させるなど、ノート指導を工夫する。 植物のつくりやはたらきで見られる現象の名称を覚えるより、その仕組みを理解できるようにする授業構成を心がける。 原因と結果をセットで話す習慣を継続させ、言語化の練習をすることで学習の定着を図る。

宇都宮市立城山西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「話す・聴く」ことの重点的な指導	・児童が相手の話に耳を傾けたり、自分の考えや分かったこと、疑問に思ったことを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に発信したりするなど、互いにやり取りをしながら主体的に学習活動を進めることができる工夫をする。	・「話を最後まできちんと聞いている」と回答した児童が約8割と多かった。だが、個人差も見られる。 ・「話合いに自分から進んで参加している」と回答した児童が約7割であった。個人差も見られる。
基礎的な事項の十分な定着	・全校体制で、「書くことキャンペーン」を活用した言葉の力を高める取組を月1回行ったり、週末学習として作文や言葉に関するプリントなどに取り組んだりして、書く力を高められるようにする。 ・宮っ子学カステップアップシートを活用して漢字・計算の検定をし、基礎学力の向上を図る。	・第6学年の国語・算数の基礎事項では、市平均を上回った。だが、第5学年の漢字が書けなかったものもある。 ・我が国の言語文化に関する事項では、市平均を下回った。 ・「学習が分かったり、できるようになったりするとうれしい」と感じている児童が約8割と多かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎的な事項の学力向上が図られ、少しずつ自信につながってきている。その力が確実な定着となり、次年度の学習へ生かせるように、引き続き全校体制で基礎学力の向上に向けた取組を行っていく。

・友達とやり取りを行うよさを感じられる児童がいる一方で、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童は多いとは言えない。中間の振り返りを取り入れた授業展開など、意図的に話し合える場の工夫を図り、学び合う楽しさを感じて主体的にコミュニケーションを図る児童の育成に努める。